

「いやあ、今年はすごい人出だねえ」。8月15日夜、渡島管内木古内町で開かれた「きこない咸臨丸まつり」に集った大勢の人波に、実行委員長の木元護さん(73)が顔をほころばせた。

7回目を迎えた恒例の祭りだが、今年には木元さんたち実行委には特別な思いがあった。咸臨丸は江戸幕府の発注でオランダで建造され、遭米使節団の護衛艦として勝海舟らを乗せ、日本で初めて太平洋を往復。幕末の戊辰戦争を戦い、維新後は北海道に移民を運ぶ輸送船となったが、1871年(明治4年)に木古内町のサラキ岬沖で座礁、沈没し、船体は今もそこに沈んでいるとされる。

初のサミット

座礁から140年の節目となる今年、全国

咸臨丸に夢乗せて

木古内沖座礁から140年



⑤ 観光資源

「きこない咸臨丸まつり」のパレードで咸臨丸の山車を引く地元中学生たち



波乱の運命に脚光

から咸臨丸にゆかりがある関係者を町に招く。その前哨戦となる今年、町の観光に生かそうと「何を」とを策定。しかし、初回の「咸臨丸全国まち成功させたかった」という機運が高まったの財政難などで思うようは1993年だった。に具体化せず、町民に「咸臨丸まつり」が24、木元さんは言う。は1993年だった。に具体化せず、町民に「咸臨丸まつり」が24、木元さんは言う。は1993年だった。に具体化せず、町民に

荒れ地に花壇

メントも設置。同会の久保義則会長(80)は「苦しい活動だったが、何も無い町を盛り上げようとみんな必死だった」と振り返る。

「咸臨丸でまちおこし」と町民に呼びかけ、業は年々増え、現在、た。翌年には荒れ地だ。会員数は町内外で500人を超え、活動を続けたサラキ岬に、咸臨丸の建造国オランダの続けるうち、咸臨丸に国花チューリップの花壇が町民の手で造られた。球根は合田さんの「咸臨丸の会」をはじめ知人のオランダ北海道と全国の咸臨丸関係者も次々と町を訪れ、04年には町民約100人がまちづくり団体「咸臨丸とサラキ岬に夢みる会」を設立。地。う。「咸臨丸は木古内元企業も巻き込み、手だけでなく、日本人の作りで岬の公園化に取り組み始めた。毎年少しずつ花壇を拡大し、古内町を発信できる」咸臨丸やオランダの風(木古内支局の大道車をかたどったモニュ

発信 2011

1984年、徳島管 数々の謎が残る。そのの記述から明らかだ 函館博物館の学芸員らし、咸臨丸由来の部品 内木古内町サラキ岬沖 が研究者たちを引きつ が、確かな「物証」は が同岬沖を調査し、19 とは特定できなかつ けの鉄のいかりが地元 けてきた。木古内沖で 見つかったくない。 世紀の船の一部とみら た。

座礁事故は1871 年(明治4年)、仙台 藩白石宮城原白石市 の北海道移住団401 人を乗せて函館から小 樽に向かう途中で起き た。乗船者は地元住民 によって救出され、現 在の札幌市白石区に入 植した。

最期の謎 心つかむ

㊦ 調査・分析

咸臨丸に夢乗せて 木古内沖座礁から140年

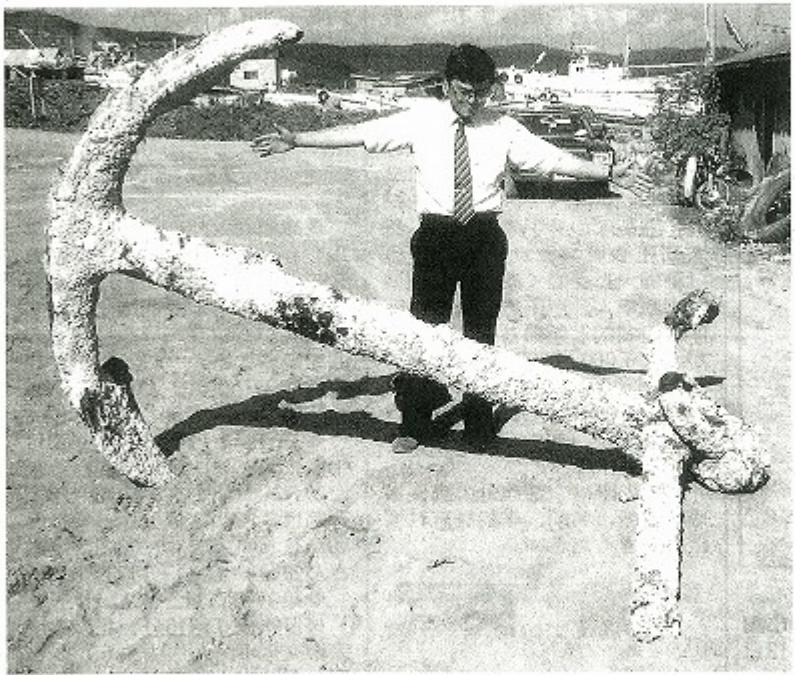


乗船者の子孫で同区 に住む柴元三さん(83) は「先祖が木古内の人 たちに助けられたから こそ、今の自分がある」と恩を忘れない。

「物証」は無し

ただ、咸臨丸の「最 期」をめぐっては今も

サラキ岬沖で発見された全長約3mの鉄のいかり＝木古内町観光協会提供



会員の小川一男さん を洋上に散らし」と表 現した郷土資料に注 目。船長が「酒に酔い たいかりの鉄成分を 分析。2006年に来 進路を誤った」との記 述もあることから、操 縦ミスが原因との見方 が、同時に東大総合 を著書で示した。合田 さんは「開拓使はミス を隠すため事故原因を 意図的にすり替えたの では」と話す。

最後の乗船者たちの 故郷、白石市の風間康 史(65)を発信しよう 静市長は「家紋入りの 破片一つでも見つけれ ば大変なニュース。い も力を入れる。」

町観光協会の東出文 雄会長(65)は「太平洋 横断の栄光だけにな く、その最期をめぐ る深い謎も咸臨丸の魅 力。謎が一つでも解明 されれば、咸臨丸の 終焉の地として木古 内をさらにPRでき、 作家の合田一道さん まちおこしにもつな がる」と意気込んでい

「月明かりが金波銀波

発信 2011

「今のせりふはもっく。監督を務める多田 業も年齢もはらばら。う。さんと出演者30人は職 照明や音響も町民が担 サミットには全国か

ら150人以上が集 威臨丸の最後の航海での活動の集大成だ。乗船した北海道移住団 子孫の会の小林賢吾の故郷。3月の東日本 会長（東京都在住）は大震災で被災し、木古 「人もお金も少ない中内町のほか登別市などでよくここまでやっての姉妹都市からも素早 た。木古内の活動はまちづくりの理想像だ」とたたえる。

航海が縁 強まる絆

古内町の中央公民館で4日夜、ステージに向かい町観光協会副会長で任職の多田賢吾さん（59）の声が飛んだ。壇上に並ぶ町民たちが念入りにせりふ練習を重ねているのは、幕末の軍艦威臨丸をテーマにした朗読劇だ。

朗読劇を披露

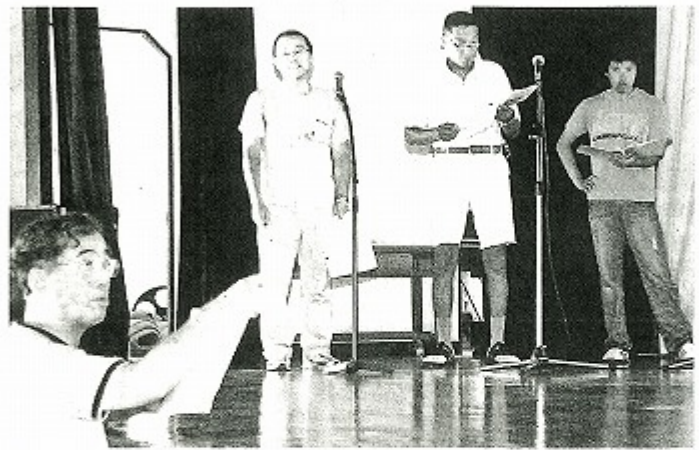
今年には威臨丸が同町サラキ沖で座礁して140年の節目。24日には同公民館で初の「威臨丸全国まちづくりサミット」が開かれ、朗読劇は翌25日にサミット参加者らを前に披露される。威臨丸の日本初の太平洋横断から座礁までのドラマを描



威臨丸に夢乗せて 木古内沖座礁から140年

① サミット

朗読劇の練習に打ち込む多田さん(左)と出演者の町民たち



国に向け出港した神奈川県横須賀市浦賀町や建造国オランダの在日大使館など威臨丸ゆかりの地の関係者に加え、乗組員や幕臣の末裔らでつくる「威臨丸子孫の会」の会員約30人も来町する。

朗読劇で勝海舟を演じる元教師の舛野信夫さん(67)は「子孫の方々の前で演じるなんて、ちょっと面はゆいなあ」と苦笑いする。

全国からの参加者の中でも特にサミットに強い思いを寄せるのは、宮城県白石市の風間康晴市長だ。同市は

復興にも一役 風間市長は「先祖が 15年度には北海道新幹線が開業し、木古内は道内で最初の停車駅となる。町にとって威臨丸は全国に発信できる貴重な観光資源だ。活動の中心を担って

発信 2011